

最近よく耳にする、高齢者のアクセルとブレーキ踏み間違いによる交通事故。認知力や身体能力の低下が原因と思われるが、果たしてそれだけであろうか？

つい先日まで、ネオクラシックと言われる1980年代のクルマを普段の足として8年間利用してきた。今時のクルマに久しぶりに乗ると、色々と便利になっている。キーを持っていればボタンを押すだけでドアロック解除、スタートボタンを押せばエンジンがかかり、

Dボタンを押してアクセルを踏めばクルマが動く。動き出せばハンドル、アクセル、ブレーキ、方向指示器のみで、目的地に到着。エアコン、ライト、ワイパーはオートで動き、ルームミラーも自動で防眩。駐車の際には全周囲をモニターで見ることができ、障害物が近づけばアラームで教えてくれる。そもそも駐車自体を自動で行ってくれるクルマもある。

マニュアルトランスミッションからオート



医界サロン

踏み間違い事故について

広報委員 村本 大輔

マチックトランスミッション全盛に変わったことが大きいですが、ネオクラシックは快適に乗るのにテクニックが必要であった。長い上り坂ではATでも、オーバードライブをオフにする、シフトダウンやキックダウンでエンジン回転を上げるなどの操作が必要。信号が変わってスタートする際も、アクセルをラフに開けるとギクシャクする。ところが、今時はGセンサーを使い、電子スロットルでスムーズな加速に調整されるのである。

便利な機能は余分な操作を減らすことができ、運転に集中できそうに思われるが、「まだ上手く運転できる」と勘違いすることにはならないだろうか？ たとえアクセルとブレーキを踏み間違えることがあっても、不便さに伴う操作で普段から余力を使うことに慣れていれば、リカバリーできそうにも思う。

高速道路では完全自動運転が可能になったようであるが、一般道での完全自動運転が可

能になるまでにはまだ時間がかかる現状、運転が上手くなったように感じる今時のクルマは、自己評価に注意する必要があるそうです。

ちなみに、踏み間違いによる事故を防ぐのにどうすれば良いか。よく話題に上るのは、左足ブレーキ。踏み間違いには有効だが慣れるまで時間がかかるため、その間のリスクが微妙です（初めて左足ブレーキを踏むときは、必ず後ろにクルマやバイク、自転車がないことを確認してください）。踏み間違い防止のペダルや、踏み間違い加速抑制システム（後付けできる車種もあります）が対策としては確実です。しかし、80歳以上になると10代の若者と同じくらい交通死亡事故が発生するというデータもあり、踏み間違い以外のリスクも考えると免許返納も選択肢に入れる必要があると思います。